

御代田町長 小園 拓志 様

御代田町議会
議長 五味 高明

(所管：町民建設経済常任委員会)

可燃ごみの減量化に関する提言書

町の人口は微増傾向にあり、可燃ごみ量は年間 1,550 トン程度で推移し、令和 2 年 12 月に 1 市 3 町で設立した佐久平クリーンセンターが稼働しましたが、町の可燃ごみ全量は焼却できず、一部は民間施設での処理となっています。

このような状況を鑑みて、町民建設経済常任委員会では「可燃ごみの減量化」を所管事務調査項目に選定し、令和 2 年 4 月より調査研究を進めてきました。また、先進地事例を参考とするため、下諏訪町・軽井沢町を視察し見聞を深めてきました。

町では、令和 3 年 3 月に「ごみ処理基本計画」を策定し、ごみの減量化・資源化の推進、適正・効果的なごみ処理の運営、あわせて一般廃棄物処理場の更新計画などが示されたところでもあります。また、他市町村との比較を見ても一人当たりのごみ排出量や資源回収率は優れていることの報告がありました。

しかし、まだ可燃ごみの減量化は可能ではないかとの議員間討議から、委員会独自で町民アンケートを実施し、その結果を踏まえ、議会の立場から下記のとおり提言します。

記

可燃ごみの減量化を進めるには、費用対効果だけでは計れない。

SDGs の達成に向けて、循環型社会の形成は重要ととらえる。雑紙・剪定枝・草木を単なるごみとしての位置づけから 3R (Reduce リデュース発生抑制、Reuse リユース再使用、Recycle リサイクル再生利用) を積極的に実践し、再資源化に向けた施策の展開を期待する。

提言1 雑紙の分別

雑紙分別を一層進めることにより経費削減に努め、佐久平クリーンセンターへの可燃ごみの搬入量を減らすよう提言する。

- (1) 雑紙分別方法を冊子（暮らしのカレンダー）から抜粋して、掲示できる1枚の用紙にわかりやすくまとめること。
- (2) 雑紙を正しく分別すると740万円の経費削減効果が期待できることを町民に理解してもらえるように啓発すること。
- (3) 雑紙分別啓発袋を定期的に配布するなど、分別を継続できるようにすること。
- (4) 雑紙を出しやすくするよう検討すること。

提言2 剪定枝・草木の処理

今までは「ごみ」として扱っていたが、今後は資源としてリサイクルすることを提言する。

- (1) 可燃ごみとして出される剪定枝・草木の量と、出す地域の現状把握をすること。
- (2) 処理方法（置場・破砕機・委託など当町に見合った方法）について検討すること。